

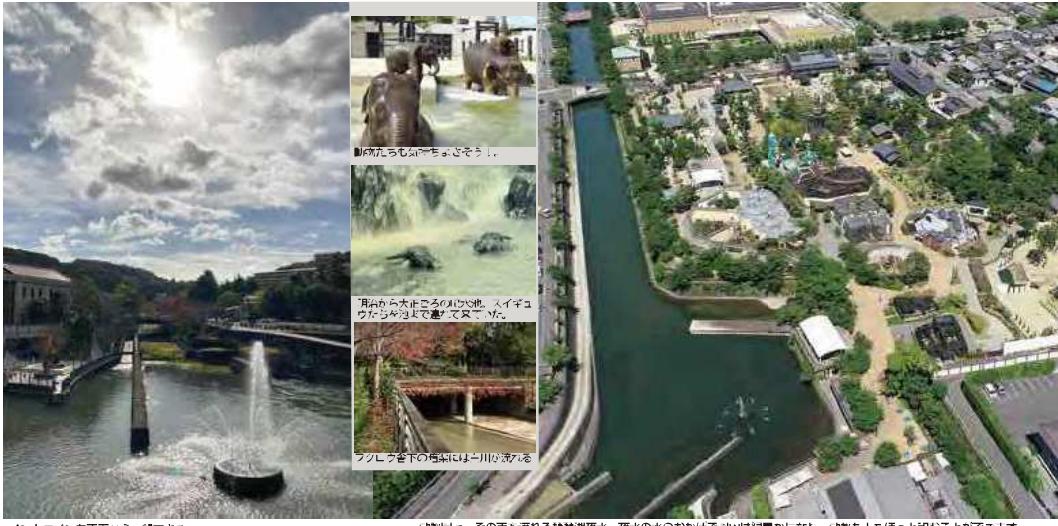
## Features 特集

# 琵琶湖疏水と京都市動物園

### ～疏水がはぐくむ動物たち～

明治の初め、実質上の東京遷都に伴う京都の人々の勧説、地域の衰退に歴史をかけるため、琵琶湖から京都へ水を引くという大がかりな琵琶湖疏水建設が急遽に実現化しました。明治23年に第一疏水が開通し、明治24年に竣工インクラインの運用が始まったことで、動物園を含む岡崎地域は水力発電、牛糞関連事業などで大きく発展することになります。岡崎中心部の土地で、明治28年に平安遷都一百年紀念祭と第4回工芸勧業博覧会が同時

既催され、それを斯に開催された平安神宮には疏水から引水した神苑が築かれ、主要パビリオンとして美術館や工業館とともに動物館がかりな琵琶湖疏水建設が急遽に実現化しました。それ以後、岡崎地域には文化施設の建設が次々と、明治36年4月に大正天皇の御成船を記念して、全国で2番目の動物園となる京都市動物園が開園しました。岡崎地域の疏水利用として特徴的なものには、一帯の庭園池での利用があり、動物園においても開園当初から様々な動物で利用しています。



インクラインを正面から見できる。

動物園は、その南を流れる琵琶湖疏水。疏水の水のせいで、池内は静かになり、動物も人もほっと和むことができます。



#### イチモンジタナゴはどこにいる? ～琵琶湖疏水でつながる命～

琵琶湖疏水の水は岡崎地域の多くの庭園の池に利用されており、その中でも平安神宮神苑の池では、現在の琵琶湖ではほとんど見られなくなってしまったイチモンジタナゴが一生息しています。イチモンジタナゴが絶滅危惧度を減らしている理由の一つにブルーギルやオオクチバスなどの外来魚による捕食があります。平安神宮では疏水の蓄水池に砂利過濾装置を設置したため、昭和56年に以降は琵琶湖から魚が流入することなく、それ以前にも流入し、定着していたイチモンジタナゴが命をつなぐことができたのです。

## 疏水の水を利用している動物たち

琵琶湖疏水とともにその歴史を刻んできた当時の動物たちにとって、疏水の水は切っても切り離れないものです。園内を巡りながら、疏水の水がどこで、どの動物に使われているか楽しめてみると楽しいですよ! 異なる場所で、豊富に水が使われていることに気づくはずです。



## エコ! 噴水池の噴水

動物園で120万回変わらぬ姿を留める噴水池の水は、どのように噴き出しているのでしょうか。実は、電力は一切使っていないともニコな噴水なのです。その仕組みは「高差差」。琵琶湖と動物園の標高の違いを利用して、流れ込む水の水圧で噴出しています。時には噴水の出が悪くなり、噴出口を見るたくさんのかわいらしいシジミが詰まっていたことも…。疏水の水がそのまま流れ込む噴水池からでのできごとです。これからも皆様に親しまれるよう大切に維持管理していきます。



琵琶湖と水面との高低差が生む水压だけで吹きかかる天然噴水。動物園では見事に水を噴き出します。

## 噴水池に集まる生き物たち

春先からシガエルのオタマジャクシやアメリカザリガニの姿が日立つ噴水池ですが、過去の池干しじゃ、ヤリタナゴ、オイカワ、ヨシノボリなどの在来種も確認されました。それらの生き物を求めて、アオサギやリワヤミ、時にはヒメもやってきます。池の周りの花には、尼山も集まります。水のある場所は、さまざまな生き物の生活の場となっています。

